

令和2年度 学力向上プラン

～学校教育目標の実現・達成に向けて～

学校教育目標（めざす子ども像）

心の力：人権感覚、積極性

人権教育や支援教育を推進し、思いやりのある心、挑戦する心、粘り強く取り組む等、前向きに取り組める「心の力」をつける。

学ぶ力：自ら学びを深める

主体的で対話的な学習を進めることで、深く考え、積極的に取り組むことができる「学ぶ力」をつける。

つながる力：コミュニケーション能力

対話を重視した授業など学校生活を送るうえで、友だちや先生、地域の方と、またモノや情報と「つながる力（コミュニケーション力）」をつける。

学力向上に向けた重点施策

- 1) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を養う。
- 2) 「書くこと」の領域を研究領域とし、子どもたちの思考力を高める指導法の研究を行う。
- 3) これまでの取り組みの成果と課題に基づき、子どもたちの学ぶ姿を根拠に取り組みの推進を行う

児童の取り組み状況や習熟度等の把握・分析・検証

- 1) 「自分の力をのぼそうアンケート」の実施
長尾小の児童に「つけたい力」を明確化。精査した項目で学期毎のアンケートを実施することで、進捗状況を正確に把握する。
- 2) 全国学力学習状況調査問題の効果的な活用
令和2年度未実施となった「学力学習状況調査問題」を活用し、児童の学力学習状況を把握する一助とし、学力向上に向けた取り組みの推進を図る。
- 3) 学期末テストの実施
国語科、算数科については、文溪堂のテスト問題を全学年で採用し、児童一人ひとりの学力学習状況を同一集計ソフトで分析、検証し、可視化する。

具体的方策

1) 思考力・判断力・表現力の育成

- ・学びの「見通し」を強化し、子ども達の主体性を引き出すための学習計画の作成・共有・活用。
- ・習得した知識や技能が活用されるような学習課題（「言語活動」や発問）の検討、実施。

2) 「書くこと」の研究

- ・単元毎の「つけたい力」に正対した魅力的な言語活動の検討、実施。
- ・「書くこと」の目標や、学習過程に沿った課題に応じた個別の支援の検討。

3) 研究の継承

- ・学習規律の徹底に向けた「長尾小スタンダード」の作成・共有。
- ・「聴き方名人」「話し方名人」「言葉の架け橋」等の取り組みの指針の継続。
- ・「自分の力をのぼそうアンケート」の実施、分析、検証、手立ての検討。

保護者・地域との連携

- (1) 児童の健全育成のため、保護者に対して、学校だよりや学校ホームページ等を通じて、積極的な情報提供に努める。
- (2) 児童健全育成諸団体との連携を積極的に行い、落ち着いた教育環境の整備に努める。